

行田市花き農家の支援のための花いっぱい運動

プロジェクションマッピング〜ル・コルビュジエ小さな家実寸レプリカ〜

ものづくり大学 空間デザイン&アート大竹研究室は、デザイン制作、現代アート制作、建築設計、空間設計、デザイン系論文などを行う研究室である。学生自身が好きなことを、楽しみながら研究している。

2022年度は、コロナ禍が続く中、行田市内の花き農家の事業継続につなげるための支援を目的とした、「行田市花き農家の支援のための花いっぱい運動」を取り組んだ。2023年度は、学内に展示されているル・コルビュジエ小さな家実寸レプリカに、モデュールを用いた寸法教育のためのアニメーションを投影する「プロジェクションマッピング〜ル・コルビュジエ小さな家実寸レプリカ〜」を制作している。

「行田市花き農家の支援のための花いっぱい運動」では、市内で生産されたポット苗を用いた「花飾建築」と「花枠灯籠」、ロス花を用いた花手水「水彩城花」のフラワーフォトスポットの制作を行なった。

「花飾建築」は、単管足場にポット苗を設置した花台であり、中に入ると花で囲まれた空間が体験できる。また、制作物の前から撮影すると背景にある建築物（行田市指定有形文化財・日本遺産である旧忍町信用組合）が花で装飾されたように見えるフラワーフォトスポットである。ものづくり大学の授業で用いる単管足場を使用した。授業で使用されない期間に、学生等によって施工、展示した。展示後は解体され、再度授業で使用する。

「花枠灯籠」は、忍城址公園内の門前広場で展示を行った。多数のプランターを設計・制作し、花を展示することで閑散とした門前広場を彩った。4サイズの枠を重ねるプランターにすることで様々な構成が可能であり、収納時は重ねることで嵩張らない特徴を持つ。毎月第一土曜日に行われているライトアップイベント「希望の光」ではライトを灯すことで和の空間を演出した。

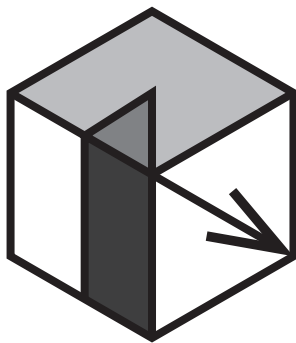
「水彩城花」は、3Dプリンター等を用いて制作した忍城や田楽踊り古墳などのオブジェと花と一緒に、浮城の小径にある池に浮かべライトアップした。

コロナ禍が続く中、花き農家が需要の低迷や資材高騰により経営に圧迫されている状況であった行田市内の生産者からポット苗を買い上げ、農家の事業継続につなげるための支援となった。

ものづくり大学では、本学のものづくり教育の拠点としての本学のユニークさを広くアピールすることを目的とした「世界を変えたモノに学ぶ原寸プロジェクト」を2010年度より取り組んでいる。第一弾のル・コルビュジエ「カップ・マルタンの休暇小屋」原寸レプリカ制作に続く第二弾ル・コルビュジエがレマン湖畔に両親のために設計した「小さな家」または「母の家」と呼ばれる歴史的な住宅の原寸制作に着手した。

「プロジェクションマッピング〜ル・コルビュジエ小さな家実寸レプリカ〜」は、小さな家原寸レプリカに、人体寸法に黄金比やフィボナッチ級数を当てはめたル・コルビュジエ独自の尺度モデュールを象徴する男性像「モデュール・マン」をプロジェクションマッピングで投影することで、ル・コルビュジエのスケール感覚を体感できる空間の制作を計画している。

ものづくり大学 技能工芸学部 建設学科 大竹由夏



Otake Art & Design Space Studio

行田市花き農家の支援のための花いっぱい運動

設計・制作

ものづくり大学 空間デザイン&アート大竹研究室 笠倉 圭介 三森 公威 大竹由夏

制作

ものづくり大学非常勤講師 河野 哲士

ものづくり大学 空間デザイン&アート大竹研究室 笠倉 圭介 三森 公威 石附光大 岩井海珠 大山和彦 亀山聖斗川戸隆椰 篠田千夏

鈴木雄太 三崎敬音 飯野恵汰 佐々木俊之 清水俊輔 白岩天就 鈴木翔太 浜田颯太 松本修弥 山口大輔 四方田社吾

XIA WENXIN 大竹由夏

協力

行田市農政課 行田市都市計画課 テクノホルティ園芸専門学校 ものづくり大学学生有志

プロジェクションマッピング〜ル・コルビュジエ小さな家実寸レプリカ〜

設計・制作

ものづくり大学 空間デザイン&アート大竹研究室 三崎敬音 三森 公威 清水俊輔 松本修弥 大竹由夏

R&R 建築再生展 2023 ものづくり大学展示ブース

設計・制作

ものづくり大学 空間デザイン&アート大竹研究室 三崎敬音 三森 公威 清水俊輔 松本修弥 飯野恵汰 佐々木俊之 白岩天就

鈴木翔太 浜田颯太 松本修弥 山口大輔 四方田社吾 XIA WENXIN 大竹由夏

ものづくり大学連携講師・教諭 埼玉県立春日部工業高等学校 江原聖直

